



きょうさいだより

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

vol.20-01 2020 winter



「初日の出 西海橋」撮影：早田 浩 氏

INDEX

- | | |
|---|--|
| 2 ● 新年のごあいさつ
院長 井口 東郎 | 6 ● 村岡救急・防災専門役令和元年秋の叙勲受賞
● 新任医師の紹介 |
| 3 ● インフォメーションボード
(デジタルサイネージ) の設置について
● 医療を支える人ー病理診断科ー | 7 ● 医療連携室より
● シリーズ「災害から命を守るために 火災避難編」
● 編集後記 |
| 4 ● 診療活動の現況 ー産婦人科ー | 8 ● 外来診療担当表 |

〒857-8575 長崎県佐世保市島地町 10 番 17 号 TEL0956-22-5136 (代)

紹介受付専用 FAX (医療連携室) 0120-12-2067 HP <http://www.kkr.sasebo.nagasaki.jp>

急患室直通 FAX ☎0956-22-6052 (代) FAX0956-25-0662 ※休日・夜間のご連絡は、急患室直通的番号でご連絡下さい。

新年のごあいさつ

院長 井口 東郎



皆さん、新年明けましておめでとうございます！今回は令和になって初めて迎える新年となりますが、皆様におかれましては気持ちも新たに新年を迎えられたことと思います。

さて、日本では世界に先駆けて人口減少および高齢者の増加が進んでおり、これに向けた医療体制の構築が急務となっています。佐世保県北医療圏では佐世保市にある4基幹病院が県北地区を支える構図は将来的にも変わりません。ただ、地方都市では基幹病院といえども働き方改革や医師の都市偏在、等が相俟って医師の確保が困難な状況に陥っており、今後の診療機能の維持が案じられています。医療の世界はこのような激動の時代に突入しており、一步舵取りを誤ると存立の危機に繋がるため、将来の変革を見越した難しい舵取りが求められています。

共済病院は今後も急性期病院として佐世保県北医療圏における基幹病院の一翼を担って行く所存です。しかしながら、医師数が足りていないことで全ての診療科で対応できる体制が確立されておらず、診療機能の絞り込み（役割分担）を余儀なくされています。さらに皆さんもご存じのように「働き方改革」が法制化され、2024年より待ったなしでスタートします。これに向けても医師確保が前提にあり、都市部はともかくとして、佐世保のような地方都市では働き方改革はまさに「絵に描いた餅」で、自助努力だけではとても実現性は乏しいと思われます。このように厳しい医療情勢ではありますが、共済病院の立ち位置につきましては、本医療圏における効率的な診療を目指した基幹病院間の役割分担といった意味合いもあり、(1) 高齢化社会

でさらなる増加が見込まれる骨折診療、(2) 国民の2人に1人が罹患するがん診療（とりわけ腫瘍内科のがん化学療法）、(3) 本医療圏で手薄な周産期医療の3領域に診療機能を集約し、佐世保県北医療圏の地域医療に貢献してゆきたいと思っています。

昨年のラグビーワールドカップでは日本チームの活躍が国民に大きな感動を与えてくれましたが、なかでも昨年の流行語大賞に輝いた「one team」という言葉が印象的で、ラグビーのチームプレーがどういったものであるかを私たちに教えてくれました。スポーツには個人の技量で成績が決まるスポーツ（ゴルフが右代表でしょうか？）とチームで戦うスポーツがあります。ラグビーはまさに後者で、個人の技量はもちろん必要ですが選手個々が瞬時にゲームの状況判断を行い、それをチームプレーに繋げてゆかねばならず、これが「one team」の意味するところではないかと思われれます。まさに病院といった組織でもこの「one team」の理念が必要とされています。共済病院では全職員が今一度「one team」の意味するところを汲み取り、今後も患者さんに寄り添った医療を提供して行く所存です。

以上、新年を迎えまして共済病院としての抱負を表明させていただきました。病院の存立にとりましては地域医療機関との連携が要ですので、地域の皆様におかれましては今後ともよろしくご支援の程、お願い申し上げます。



「見て・さわって」電子掲示板の利便性を実感してください

医療連携室 兼 健診センター 課長 森 博紀

当院では、来院者の利便性向上と医療連携推進を図るため、院内にインフォメーションボード（デジタルサイネージ）を設置いたしました。デジタルサイネージとは屋外・店頭・公共空間・交通機関等あらゆる場所において、大型のディスプレイ等で表示する電子掲示板のことで、皆さんも駅や空港等で利用または目にされたことがあるのではないのでしょうか。今回、このインフォメーションボードを導入してタッチパネルによる連携医療機関の検索や病院近隣、院内

の地図表示、公共交通機関の時刻表、ニュース・天気予報、病院からの情報発信等を広報することで患者さんだけでなく、来院される全ての方の利便性の向上を図ることが目的で、待ち時間のストレス軽減にも一役買うのではないかと考えております。実際のサイズは約縦2m×横3mと大型で、多くの皆さんが利用しやすいよう1階玄関付近に設置しております(画

像参照)。ご来院の際にはぜひ一度「見て・さわって」この電子掲示板の利便性を実感して頂ければと思います。



医療を支える人々

病理診断科

当院病理診断科は平成20年に標榜診療科として認定され、常勤病理専門医1名、細胞検査士2名、臨床検査技師1名で業務を行っています。主な業務は各科から提出された生検組織や手術で摘出された臓器から、標本を作製し病変の確認および診断を行っています。また、術中迅速診断では手術中に提出された検体を凍結処理し、迅速に標本を作製して良悪性の診断を行い、術式の方針決定に寄与しています。細胞診診断は各組織か

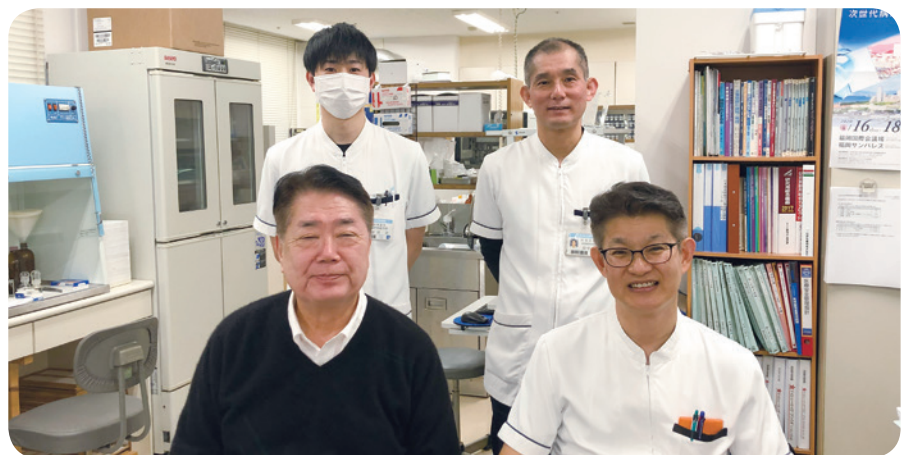
ら穿刺、擦過された細胞を液状検体処理することで細胞収集を高め、正確な診断を行うことに努めています。剖検では治療経過の確認と死因の追究を行い、臨床側との検討会も行っています。近年、がん治療薬の進歩に伴い遺伝子検査も増加してきています。コンパニオン診断として各患者さんに適

病理診断科 技師長 川崎 辰彦

した治療薬の選択を目的とした遺伝子検査を行い、治療薬の適・不適の確認を行っています。今後、ドライバ遺伝子の検索が行われ、治療薬の開発が進むと思われます。また、他院からのコンサルト、病理細胞診断も行っており、これからも地域医療へ貢献していきたいと思っています。



病理診断科



病理診断科スタッフ（前列左 井関部長、前列右 川崎技師長）

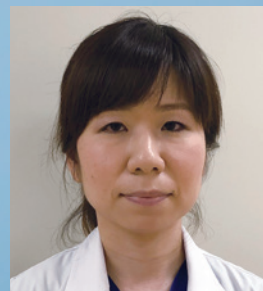
※コンパニオン診断：医薬品の効果を予測する検査 ※ドライバ遺伝子：がんの発生・進展において直接的に重要な役割を果たす遺伝子

何かお困りの症状はありませんか？ どうぞ産婦人科で気軽に相談してください



— 産婦人科 —

産婦人科 二尾 愛



●はじめに

当院産婦人科は5人の常勤医が在籍し、今年度は男性医師3人、女性医師2人で、ほぼ例年1人以上は女性医師が勤務しています。外来は4人体制で原則的に平日の午前中のみ行っており、午後は毎日数件の手術を施行しています。急患は24時間対応しています。産科と婦人科(良性・悪性)の幅広い領域に対応しており、2018年度の分娩数は280例(そのうち帝王切開105例)、総手術数は502件でした。

女性のライフステージは小児～思春期・性成熟期・更年期・老年期の4つに分けられ、それぞれの時期で産婦人科と関わるがあると思います。産婦人科の受診は羞恥心のために抵抗がある方も少なくありませんが、受診が遅れることで病気が進行することもあります。ご自分の身体を守るため、気になる症状がある方は是非相談に来てください。

●小児～思春期

およそ10～14歳で初経を迎えます。この時期の女性ホルモン不足は身長や骨密度に関わってきます。満15歳になっても月経が無い場合は、染色体異常や女性器の形態異常など先天的な問題を抱えていることがあります。月経不順や月経痛などの相談にも乗っています。

●性成熟期

主に18歳～40歳代前半の年代になります。妊娠・出産だけでなく、様々な婦人科疾患が現れる時期です。まず性交渉を経験した方は、1～2年に1回は子宮頸がん検診を受けてください。日本では子宮頸がんを予防するためのHPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンの普及が遅れています。子宮頸がんは20代後半から増加します。がんになる前に局所治療することで子宮を温存できますので、早期発見が大切です。

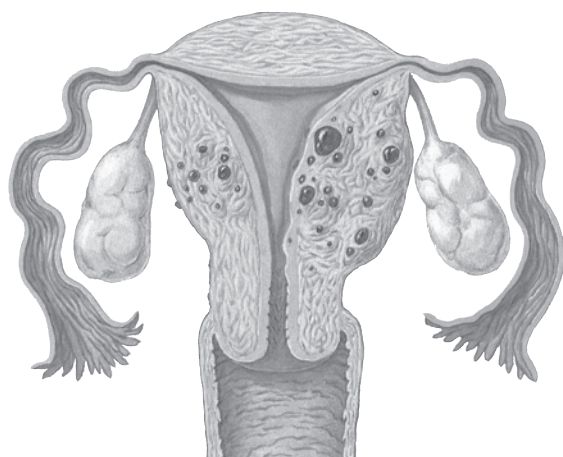
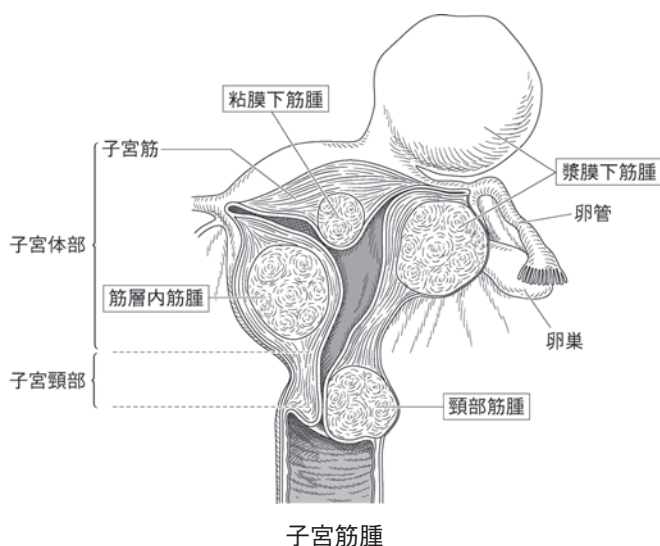
月経痛が強い方は子宮内膜症の可能性ががあります。子宮内膜症は卵巣嚢腫や不妊症の原因になり、閉経するまで徐々に進行していく病気ですが、低用量エストロゲン・プロゲステン配合薬(LEP)の内服で進行を抑えることが可能です。ホルモン剤は副作用が気になって抵抗がある方もいますが、妊娠中より血栓症のリスクは低く、安全性が高いことが証明されています。将来の子宮体がんや卵巣がんの発生リスクを下げることも示されています。

月経量が多い方は、子宮筋腫や子宮腺筋症(子宮内膜症による子宮腫大)があるかもしれません。我慢していると貧血が進行してしまいます。また、無症状でも卵巣腫瘍が見つかることがあります。卵巣腫瘍は大きさが6cmを超えると茎捻転を起こすことがあるため、手術適応となります。いずれも超音波検査を受けることが大切

です。

不妊の相談の方もよく来られます。当院ではホルモン検査、子宮卵管造影検査、精液検査、排卵誘発、タイミング指導、人工授精などを行っています。

産科に関しては、まず妊娠反応が陽性になったら「子宮内妊娠」であることを確認するために早めに受診してください。異所性妊娠、いわゆる子宮外妊娠は、放置すると腹腔内で大量出血し命に関わります。当院では妊娠高血圧症候群や双胎、前置胎盤、妊娠糖尿病などの合併症のある妊娠だけでなく、里帰りなどの正常分娩も多く取り扱っています。妊娠30週以降の分娩に対応しています。



子宮腺筋症

● 更年期

閉経前後5年間を併せた計10年間のことを更年期といいます。日本人の平均年齢は約50歳で

すが、早い人は40歳代前半、遅い人は50歳代後半に閉経を迎えます。更年期症候群はホットフラッシュ(多汗)、不眠、肩こり、冷え、頭痛、イライラ、抑うつ、不安など多彩な症状を呈します。漢方療法やホルモン補充療法で症状を軽減することができます。この時期はホルモンバランスの変化で月経不順や不正性器出血を来すことはありますが、全て年齢によるものと考えて様子を見るのは危険です。不正性器出血が続く時は子宮体がんの可能性もありますので、早めに受診してください。

● 老年期

「閉経したから婦人科の病気にはならない」と考えている方がよくおられます。むしろ卵巣がんは50～60歳代がピークで、80代以上の方も経験します。初期の段階では自覚症状に乏しく、半数近くがⅢ期以上で見つかります。集団子宮がん検診では早期の卵巣がんを発見することは困難なため、定期的に婦人科を受診することをお勧めします。また、「腔から何か下がってきた」という骨盤臓器脱(子宮脱、膀胱瘤など)で密かに悩んでいる方が多いのではないかと思います。ペッサリーというリングを腔内に留置して子宮を押し上げる方法や、腔側から子宮を摘出する手術療法があります。治療を開始した後は快適に生活することができ、「もっと早く来れば良かった」と言われることが多いです。その他、女性ホルモンの低下により腔粘膜や外陰部皮膚が弱くなり、帯下の増加や外陰部痛などの不快な症状を来すことがあります。萎縮性腔炎というもので、塗布薬や内服薬で対応することができますので、気軽に相談してください。



子宮脱のペッサリー

村岡昭治専門役が勲章を受章されました!

管財課課長 田淵 賢太郎

この度、令和元年秋の叙勲において、当院の村岡昭治 救急・防災専門役が瑞宝双光章（ずいほうそうこうしょう）を受章されました。

瑞宝双光章は国及び地方公共団体の公務、または公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた方に対して授与される名誉ある勲章です。村岡専門役は前職の佐世保市消防局において消防署長という消防・防災・

救命救急といった市民の安全を守る重責の中核としてご活躍された経歴をお持ちであり、今回の叙勲は、まさにその功績の賜です。

現在、村岡専門役は当院のご意見番として、豊富な経験と知識、そして持ち前の気さくな性格で職員や患者さんを元気づけながら、毎日ご活躍されています。

職員一同、村岡専門役の功績に対し、改めて感謝と称賛の気持ちをお贈りしたいと思います。



新任医師の紹介

新任の医師が着任しました。



産婦人科 泉 りりこ

出身大学：広島大学
平成27年卒

在籍医局：九州大学
専門領域：産婦人科
出身地：福岡県
よろしくお願ひします。



眼科 藤田 皓

出身大学：宮崎大学
平成27年卒

在籍医局：福岡大学
専門領域：眼科一般
出身地：福岡県
精一杯頑張ります。
よろしくお願ひします。

小値賀町国民健康保険診療所

〒857-4701 北松浦郡小値賀町笛吹郷1757番地8 TEL 0959-56-4111 診療所長 田中 敏己 先生

小値賀診療所は、昭和60年に長崎県で初めての健康管理センターと併設される形の診療所として開設されました。開設当時は個人病院もありましたが、平成10年以降は町内で唯一の医療機関となり、島の医療を担っている現状にあります。

診療科目は内科、小児科ですが、専門医を招聘し肝臓、精神科、整形外科、眼科、循環器内科、泌尿器科の専門外来を行っています。また一般病床11床、療養型病床6床を有しながら、毎週火曜日、木曜日には隣接する特別養護老人ホームへ出向き、

入所者の診療を行っています。更には二次離島にも渡り、少しでも受診機会を増やすべく医療サービスの提供を行いながら、地域医療に取り組んでいます。

離島地域にある関係から佐世

保共済病院の先生方には救急搬送の受入れ対応など格別なご助力を頂いており、大変感謝しております。今後ともよろしくお願いたします。



田中先生とスタッフのみなさん

シリーズ「災害から命を守るために 火災避難編」

災害から命を守るために

救急・防災専門役 村岡 昭治

春は空気が乾燥し火災が多発する季節です。全国統計では、毎年死者約1,500名で、負傷者約6,000名、65歳以上の高齢者が亡くなる割合が70%を超えているのが現状です。命を守るためには、火災を発生させないことが第一ですが、初期消火ができないと判断した場合は迅速に建物外へ避難することです。

しかし、廊下や階段に不要物品

を放置したり、家具類で窓や出入り口を塞いでいると逃げ遅れの原因になります。死者の大半が逃げ遅れて有毒ガス（一酸化炭素）を吸い込み、命を失っていますので避難経路の確保と煙対策（防火戸、扉の閉鎖など）が重要になります。病院や福祉施設では、火災状況から避難口を選定して自ら安全を確保しながら入院患者や入居者の身体状態に応じた避難方法及び避難

方向（水平避難、上下階への垂直避難）を即断しなければなりません。火災時の行動を職員間で共有し確認しておくことが必要です。

家庭においても、2階に寝室や生活空間がある場合に、1階が火災になり階段から避難ができない時など、それぞれの住環境や家族構成で避難方法が異なりますので、自らの命、家族の命を守るために最善の避難方法を確認しましょう。



編集後記

今年は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの年です。皆さんは観戦チケットを手に入れましたか。私は5月8日と9日の聖火リレー（南島原～佐世保）だけでも間近で見たいと思っています。9日土曜日は、ニミツパークでイベントもあるようです。楽しみですね。

編集委員 栄喜 貴穂

外来診療担当表

令和2年1月1日現在

科	役職	医師名	月		火		水		木		金		備考（専門分野・特徴など）	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後		
腎臓内科	部長	福成 健一	●						●				腎臓疾患・人工腎臓	
	医長	金谷 晶子			●			●					腎臓疾患	
	医員	山崎 政虎					●				●		腎臓疾患	
	〃	橋本 康平	●						●				腎臓疾患	
循環器内科	部長	金谷 誠司					●		●				循環器疾患	
	医員	片伯部幸子								●		●	循環器疾患	
	〃	北村 知聡	●						●				循環器疾患	
	非常勤	田淵くみ子									●		循環器疾患	
	〃	横山 晋二					●						循環器疾患	
	〃	熊埜御堂淳									●		循環器疾患	
〃	眞島 涼平	●		●								循環器疾患		
呼吸器内科	非常勤	堤 央乃					●						呼吸器疾患	
糖尿病内科	非常勤	梶谷 祐介						※	※				※第1・3・5週	
	非常勤	竹野 歩						※	※				※第2・4週	
消化器内科	非常勤	河野 健次							●		●		肝臓疾患、糖尿病	
	〃	藤松 雅彦							■				消化器内科	
	〃	橋口 慶一										※	消化器内科 ※第1・3・5週	
	〃	田淵真惟子										※	消化器内科 ※第2・4週	
腫瘍内科	院長	井口 東郎						●					膵がん・胆道がん	
	医員	二尾 健太	●					●		■	●		1.消化器がん（食道がん・胃がん・大腸がん・膵がん・胆道がん・肝細胞がんなど）2.乳がん、3.原発不明癌、4.肉腫（GIST・軟部肉腫）・その他	
	〃	上原 康輝	■		●				●				消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科	
外科	副院長	井原 司						●		●			消化器外科・肝胆膵外科・内視鏡下外科・一般外科	
	乳腺外科部長	原田 洋						●			●		乳腺外科・一般外科	
	消化器外科部長	富崎 真一	●		●			●					消化器外科・内視鏡下外科・一般外科	
	肝胆膵外科部長	丸山祐一郎	●						●		●		消化器外科・肝胆膵外科・一般外科	
	医員	内野 馨博			●						●		一般外科	
	〃	音琴 真也						●		●			一般外科	
	非常勤	川畑 方博							●				肝胆膵外科・消化器外科・一般外科	
		乳腺外来	内野		音琴		原田					原田		※乳癌検診は、10時までに受付を行って下さい（要予約）
小児科	顧問	岡 尚記			■		■		■				小児アレルギー疾患、気管支喘息、小児一般	
	部長	上玉利 彰	●		●				●				小児血液、小児がん、小児一般	
	アレルギーセンター長	合田 裕治	■		■		■		■		■		小児アレルギー疾患、食物アレルギー、小児一般、気管支喘息	
	医長	金城 勤也			●		●		※		●		小児一般（※第1・5週）	
	〃	中島 康貴	●				●		※		●		小児一般（※第2・4週）	
	アレルギーセンター副	濱崎 雄平							※		※		小児アレルギー疾患（※第3週）	
	乳児健診				●								火曜 13時から診察開始 14時までに受付を行って下さい	
	慢性外来							●					水曜 14時から診察開始	
喘息外来										●		木曜 14時から診察開始		
脳神経外科	部長	山川 勇造		●			●	●	●		●		脳神経外科一般	
	医長	尾藤 昭次	●		●		●				●		13時30分から診察開始 16時までに受付を行って下さい	
整形外科	部長	水城 安尋			●		●				●		上肢の外科（肩肘手）、足部外科、スポーツ障害	
	医長	内村 大輝			●				●		●		上肢の外科（肩肘手）、スポーツ障害	
	〃	烏山 和之	●		●				●				股関節外科、リウマチ	
	〃	上田 幸輝	●				●				●		膝・肩関節疾患、腫瘍	
	医員	伊東 孝浩	●				●						膝・股関節疾患	
	〃	萩尾 聡	●						●				整形外科一般	
	〃	高須 博士			●							●	整形外科一般	
	〃	倉貝 太志					●						整形外科一般	
泌尿器科	部長	中村 貴生			■		■		■				泌尿器疾患	
	医員	安田 拓司	※		■				■		■		※第2・4週	
	〃	伊藤 秀徳	■				■				■			
産婦人科	部長	鶴田 伸宏	●		▲		●		●				産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患	
	〃	木下秀一郎			●		●		▲		●		腹腔鏡下手術、更年期・婦人科疾患	
	医員	二尾 愛	▲		●				●		●		●：婦人科診察日 ▲：産科診察日	
	〃	井町 佑三	●		●			▲			●			
	〃	泉 りりこ	●						●		▲			
眼科	医員	藤田 皓	■		■		※	■	※	■		※	白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、翼状片手術、レーザー光凝固術	
			※：火・水・金曜の午後は術前検査と特殊再来（要連絡）											
耳鼻咽喉科	部長	大橋 充	●		●		●		●		●		鼻科・耳科疾患、聴覚疾患、耳鼻咽喉科一般	
	医員	久我 亮介	●		●		●		●		●			
放射線科	部長	野々下政昭	※検査・画像診断についてのお申し込み・お問合せは、外来までお電話下さい。											
	医長	梶原 寿浩												
	医員	田淵 史典												
麻酔科	診療部長	深野 拓			■		■		■		■		月～金午前：ペイン・緩和ケア・術前外来	
	医長	松永 祥志	■		■		■		■		■		月～金午後：手術麻酔	
	〃	木本 文子	■		■		■		■		■			
	非常勤	別府 幸岐	■		■		■		■		■			
ペインクリニック	部長	境 徹也	■		■		■		■		■		月～金午後は手術麻酔 受診等のお問合せは、直接外来までお電話下さい。	
病理診断科	顧問	井関 充及	細胞診断・病理組織診断全般											
歯科口腔外科	部長	窪田 泰孝	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	歯科口腔外科、インプラント、顎顔面外傷、口腔腫瘍、顎関節症
	医員	木附 智子	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	菌性感染症など
	〃	濱田 雄太	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
健診センター	センター長	佐藤 浩信	※お申し込み・お問い合わせは、健診センターまでお電話下さい。健診センター直通電話 0956-22-6155											
	医長	原 敬一												

●：診療日 ■：予約のみ